

第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

日 時

令和4年9月2日（金）

第5校時 13：20～14：05

対 象

第4学年2組 26名

研究主題

自ら課題を見出し、課題解決に向けて「やり通す」ことのできる児童の育成
～「心のふるさとづくり」を軸にした、カリキュラムマネジメント～

1 単元名

「みんなが住みやすい町 北小岩」

2 単元の目標

地域に暮らす人と関わったり、住みやすい町づくりに向けた取り組みを行ったりすることを通して、様々な立場の人が地域に暮らしていることを理解し、他者の視点から北小岩地域について考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

3 単元設定の理由

児童は昨年度「心のふるさと学習」で江戸川土手の植物や虫を探したり、社会科で江戸川区の特産である小松菜について小松菜農家に行ったり、話を聞いたりして地域の特色について知ることができた。

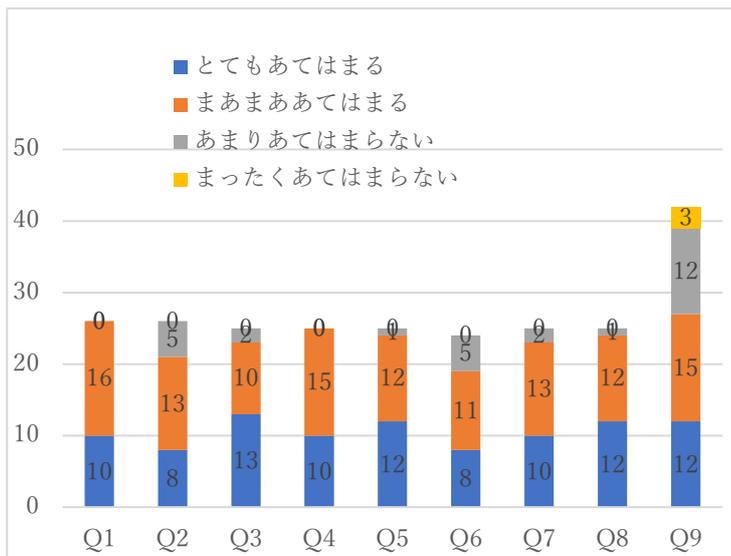
本単元では、北小岩の地域には高齢者や障がい者、小さな子供をもつ保護者等、様々な立場の人が暮らしていることを知り、様々な立場で北小岩の町を見つめ直すことでどんな人でも住みやすい町とはどんな町なのか考える。その人の立場によっては不便な環境が地域にあることを学び、課題を自分事に捉えることで、よりよい町を作っていきたいという心情をもたせたい。地域に住んでいる人と交流したり、地域に住んでいる人のために自分にできることを考えたりする中で実践する中で地域への愛着を育んでいく。

4 単元の評価規準

知識及び技能	思考、判断、表現	主体的に学習に取り組む態度
①北小岩の地域には多様な立場の人が住んでいることを知るとともに、地域に住んでいる人を支援する施設や、バリアフリーがあることを理解している。 ②北小岩の地域の課題を捉えるために、インタビューやアンケートを相手や場面に応じた適切さで実施している。 ③地域の人への接し方等、自分の行動の変容は、地域の人々の暮らしについて探求的に学んだ成果であると気付いている。	①様々な人の立場で地域の人々の暮らしについて考え、地域の課題を明らかにしている。 ②地域の現状を捉えるために必要な情報を、手段を選択して多様な方法で収集している。 ③北小岩の地域の課題解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したりしながら解決に向けて考えている。 ④住みやすい町について伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。	①課題解決に向けた、自己の取り組みを振り返ることを通して、自分の意思で探求活動に進んで取り組もうとしている。 ②住みやすい町作りに向けた探究的な活動体験を通して、得た知識や自分と異なる友達の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ③住みやすい町作りのために自分にできることに取り組むことを通して、自分と地域の関わりを見直そうとしている。

5 児童の実態

(1) 実態調査



質問項目

Q1 総合的な学習の時間は好きですか。

Q2 自分で勉強することを見つけられますか。

Q3 本やタブレットを使って調べるのは好きですか。

Q4 友達と協力して学習をすることは好きですか。

Q5 疑問に思ったことを自分で調べることは好きですか。

Q6 自分の考えや調べたことを発表するのは好きですか。

Q7 勉強でもっと調べてみたいと思ったことはありますか。

Q9 困ったときに力を借りた人は誰ですか。

(2) 考察

全体的に好意的な回答をした児童が多くいた。しかしQ2から、課題を自ら設定することを苦手とする児童が3割程度いることがわかった。課題設定場面では、思考ツールを活用して思いや考えを視覚的に整理させることで、課題を発見できるようにしていく。

6 (本単元で) 目指す児童像に迫るための手立て

本単元の学習を展開するにあたって、研究主題を以下のように捉えた

「自ら課題を見出し」

→ 様々な人の視点に立って、地域の課題を見つける

【知識・理解】

「課題解決に向けてやり通す」 → 課題解決に向けて、試行錯誤しながらねばり強く学ぶ

【学びに向かう力・人間性】

「心のふるさとづくり」

→ 地域には様々な人がいることを知り、様々な人の立場から考え、自分にできることを実践しようとする

【思考力・判断力・表現力】

(1) 様々な人の視点に立って、地域の課題を見付けるための手立て

主体的対話的で深い学びとの関連



多様な情報を収集する

多様な情報を収集するために、江戸川ボランティアセンターや地域に住む人と交流し、北小岩の町についての様々な立場の人から情報を収集する。交流を通して得られた多くの情報から新たな気付きを得たり、情報を関連づけたりするために思考ツールを活用し、視覚的に情報を整理することで地域の課題を見出せるようにする。

(2) 課題解決に向けて、試行錯誤しながらねばり強く学ぶための手立て

主体的対話的で深い学びとの関わり



見通しを持つ



振り返って次へつなげる

- ・「みんなが住みよい町にする」というゴールイメージをもって学習に取り組むことで、目的意識をもって学習に向かうことができると考える。また実際に北小岩に住んでいる様々な立場の人と交流し、思いを聞くことで、地域の課題を自分事として捉え、課題解決に粘り強く取り組めるようにする。
- ・タブレットを活用して学習の記録を残していく。児童が自身の学びを振り返り、学びを見通せるようにする。

(3) 地域には様々な人がいることを知り、様々な人の立場から考え、自分にできることを実践するための手立て

主体的対話的で深い学びとの関連



自分の考えを形成する

7 単元の指導計画 (全35時間)

小単元名 (時数)	○学習活動 ・支援、手立て ◆GT	知	思	態	他教科との関連
みんなが 住みやす い町って どんな町 だろう (12)	○地域にどんな人がいるか考え、話し合う。 ・ウェビングマップを用いて、イメージを広げる。  	①			国語「便利ということ」 道具や施設とそれを使う人との関係を読み取る
	○障がい体験（視覚障がい体験・手話体験） 				
	○障がい体験を通して、わかったことを整理する。	①			
	○様々な人の視点に立って小岩公園を題材に工夫されている場所や困る場所を予想する。 ・実際に小岩公園を見て考える。 ・高齢者、外国人、子供、小さな子供をもつ保護者の視点で話し合う。  				
○それぞれの立場の人について暮らしの中での困難や地域の施設、バリアフリーについて調べ		①			

	る。 				
	○暮らしの中での困難や地域の施設、バリアフリーについて調べる。 ・高齢者、外国人、子供、小さな子供をもつ保護者から1つ選択して調べる。 ・必要に応じて本やインターネット、地域の人へのインタビューを	②	②		国語 「夏の思い出記者になろう」 インタビューの仕方を知る。
	○住みやすい町とはどんな町か考える。 ○「みんなが住みやすい町」をテーマに新聞を書く。 	①	④	①	国語 「新聞を作ろう」 ・割り付けや見出しを工夫してわかりやすい紙面の作り方を
北小岩の町について調べよう (10)	○これまでの学習を振り返り、北小岩の地域の課題を考える。 ・実際に地域を見て、課題を見つける活動を取り入れる。 			①	
	○北小岩の町の課題について類型化して整理する。 ・思考ツールを活用し、課題を類型化する。 ○北小岩の町の課題の解決方法を考える。 ・自分たちに実現可能か座標軸を活用して、考える 				②
自分のできることを見つけて、実践しよう (13)	○地域の課題から自分ができること（自分プロジェクト）を決めて計画する。 活動例 ・地域の人との交流会 ・調べてきたことを学校や地域に広める活動 	③			
	○グループで考えた計画を全体で共有し、実際に行動できるようにする。 ○自分プロジェクトを実行する。   		③	① ②	
	○自分たちが行った活動の成果や課題を振り返る。 ・自分の考えや行動、地域への思いの変容を考えさせる。 ○計画に協力してくれた地域の人へ「お礼の会」を開く。 	③	④	① ③	

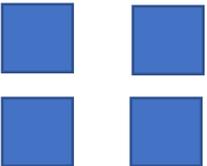
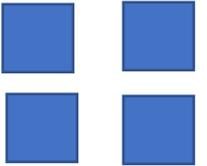
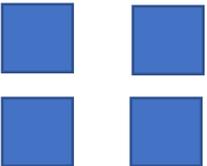
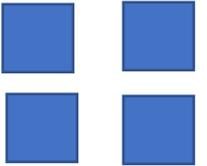
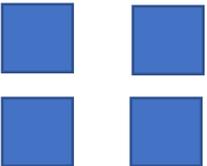
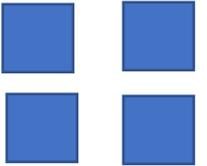
8 本時の学習

(1) 本時の目標

地域に住んでいる様々な人の視点に立って、住みやすい町について考えることができる。

【思考・判断・表現】

(2) 本時の展開

時間	学習内容	◇支援・手だて 【評価】				
10分	1 北小岩の地域にどんな人がいるか確認する 2 学習課題を確認する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 地域のいろんな人の立場にたって小岩公園について考えよう </div>	・様々な人が北小岩の町に暮らしていることを確認する。 ・前時に障がいのある人の視点に立ち、考えたことを振り返る。				
25分	3 高齢者、外国人、小さな子供、小さな子供をもつ保護者のそれぞれの視点に立ち、小岩公園の困るところや工夫されているところを予想する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2">困るところ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 50%; height: 80px;">  </td> <td style="width: 50%; height: 80px;">  </td> </tr> </tbody> </table> </div> 4 全体で共有する。	困るところ				◇少人数でに分かれたグループで考えることで話し合いが活発になるようにする。 ◇視点で付箋の色を分ける。 ◇タブレットを活用して小岩公園の写真を見て考えられるようにする。 ◇付箋を順番に出していく。似ている意見は近くに貼るようにする。 ◇各グループの模造紙を比較する。付箋の色の偏りや付箋の数に注目させる。
困るところ						
						
10分	4 本時のふりかえりする	◇タブレットの振り返りシートに本時でわかったこと、次時調べたいことを入力して、次の活動の意欲につなげる。				

(3) 授業観察の視点

- ・付箋を活用し、表にまとめたことで児童の話し合いは活発になっているか。
- ・様々な人の視点で小岩公園の課題を見つけることができているか。

【成果と課題】

成果

- 思考ツールを活用したことで話し合いが活発化した。思考ツールの活用の仕方や有効性を理解することができた。他教科でも活用できると感じた。
- 小岩公園を「外国人」「障がい者」「子供」「子供をもつ父母」の多様な視点で見ることで、他者視点で小岩公園の課題や工夫されている点を見付けることができた。
- 江戸川ボランティアセンターの方をお呼びして「障がい者体験」を行うことができた。様々な立場の人が地域に住んでいることに気付き、多様な視点で地域を見るきっかけとなった。

課題

- 思考ツール（Tチャート）で児童がグループで整理した後の、全体での共有では情報量が多い中で、何に着目させ、何に気付かせるのか発問を練る必要があった。
- グループでの話し合いでは課題に付箋が多く貼られたので、「小岩公園は悪い公園なのか」と揺さぶる発問ができたなら「障がい者には課題が多い公園だが、子供にとっては良い公園」など立場によって違いが出てきたのではないか。
- 児童のゴールイメージはどこまでもたせるべきなのか難しいと感じた。「誰にとっても住みやすい町を作りたい」という思いをもって授業に取り組みせられたら、地域のよさや課題を自分事として捉えられたのではないか。